

社会教育委員ニューズレター 第21号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 佐賀県県民環境部まなび課内

県社教委連第1回理事会

5月13日、年度初めの理事会を開催しました。

協議事項として、令和7年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員案、令和6年度事業報告・決算報告、令和7年度活動方針案、令和7年度事業計画案及び収支予算案等について協議し、総会に諮ることが決定されました。

「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、4名の方の表彰が決定されました。

また、令和6年度の協議会の「活動方針」の取組状況の報告を行い、教育委員と社会教育委員の意見交換や学校教育と社会教育の連携などの各市町での取組状況について確認し、過去の状況も含めて総会で報告することとなりました。

令和7年度 佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役 職	氏 名	所 属
会 長	上 野 景 三	佐城（佐賀市）
副会長	山 口 ひ ろ み	県社会教育委員
副会長	緒 方 哲 哉	唐松（唐津市）
理 事	古 川 勲	三神（吉野ヶ里町）
理 事	大 串 京 子	杵西（白石町）
理 事	辻 田 正 信	藤津（嬉野市）
監 事	田 中 友 子	杵西（武雄市）
監 事	藤 丸 信 一	三神（基山町）

県社教委連総会

6月3日、アバンセホールにおいて開催しました。

○開会行事

上野会長から、「新年度が始まると、社会教育関係団体への補助金の認定が社会教育委員の大きな役割になります。その際に認定するだけでなく、団体の皆さんからどんなニーズがあるのかを聞き取っていただきたいと思っています。」などのあいさつがありました。

また、佐賀県県民環境部の平野副部長が来賓の祝辞の中で、日頃の委員活動に対する感謝等を述べられました。



（上野 会長）

○県社教委連表彰

平成30年度に創設した標記表彰について、今年度は4名の方を表彰しました。

*受賞おめでとうございます。

小城市 長崎 兼治氏（10年）
上峰町 重松 規昌氏（13年）
白石町 片淵 直美氏（10年）
白石町 中村 恭子氏（10年）

（ ）は、社会教育委員在任の期間

【表彰基準】

社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった者



（左から長崎氏、重松氏、上野会長、片淵氏、中村氏（代理））

○議 事

議長に選出された白石町の川崎委員の進行のもと、次の4議案について審議され、異議なく承認されました。

第1号議案

令和6年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について

6年度の支出は、実践研修会の講師謝金の辞退や全国社会教育研究大会及び九州ブロック研究大会宮崎大会の旅費等の減により予算と比較し約25万円少なくなりました。一方、収入は約3千円増えました。収入のうち、基金から25万円繰り入れました。

実践研修会を1月に開催し、多くの社会教育委員や行政職員の参加がありました。

藤丸監事から監査報告が行われ、適正に処理されていたことが報告されました。

第2号議案

令和7年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

前頁の表のとおり令和7年度の役員が承認されました。

第3号議案

令和7年度活動方針案について

今年度の活動方針案については、次のとおりです。

昨年度の活動方針に加え、令和9年に佐賀県で開催される九州ブロック社会教育研究大会を踏まえ5番目の項目を追加しています。

《令和7年度活動方針》

① 社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。

② ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。

③ 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

④ 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう

⑤ 令和9年度九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会の成功に向けて準備に着手します。

第4号議案

令和7年度事業計画並びに予算について

10月に全国社会教育研究大会岩手大会、11月に九州ブロック社会教育研究大会福岡大会、1月に県社会教育委員実践研修会が開催予定です。

基礎 研 修 会

総会終了後、基礎研修会を開催しました。

まず、上野会長が「社会教育委員の基本的な役割」について、役員になる一般的な背景や法律的な規定など新任の社会教育委員にもわかりやすく説明されました。

社会教育委員は、社会教育法で市町等へ置くことができると規定されていますが、社会教育に関する補助金の審査があり実質的には必置となり、教育委員会が委嘱します。

社会教育委員の職務は、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ意見を述べることで、これらのために研究調査を行うことなどがあります。

また、「今後は、県社会教育委員会としては、佐賀県の社会課題に

取り組むために佐賀県に対し、提言をしていかなければならないだろう。各市町におかれても、自治体行政の方と意見交換をおこなっていただきたい。」と話がありました。



■トークセッション

【コーディネーター】

○上野 景三さん

【パネリスト】

○数山 和己さん

認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス 支援コーディネーター

佐賀県社会教育委員連絡協議会会長

○末永 麻梨子さん

佐賀県社会教育委員

○堤 公一さん

佐賀県社会教育委員

○山口 ひろみさん

佐賀県社会教育委員連絡協議会副会長

【テーマ】
子どもを取り巻く環境の変化に対応した
取組の現状と課題

それぞれの発言の要旨については、次のとおりです。

（上野） 本年3月に、県社会教育委員と県教育委員とで意見交換を行いました。議論の中でコロナ禍以降、今までに見られなかったような子どもを取り巻く環境の変化が起きていることが課題として取り上げられました。

その課題の柱が、「不登校の問題」、「家庭（保護者）への支援」、「体格差・体験不足の解消」の3つでした。佐賀県社会教育委員

の会議では、今後、佐賀県に対し、提言を行う予定であり、その議論を活発化させるために4名のパネリストからお話をうかがいます。



不登校の問題について

（数山） 私は、スチューデント・サポート・フェイスというNPO法人において佐賀県の子ども・若者総合相談センターの相談責任者を務めています。

団体では、不登校や引きこもり、ニートの若者への支援を行っています。

ますが、最近是不登校問題がますます複雑化しており、その対策にも多様性が求められています。

佐賀県内では、小中学生の不登校児は200人以上おり、そのうち、6割以上が90日以上欠席しています。このように、深刻な状況にある子どもたちの問題を強く認識しています。

私たちは家庭訪問型の支援を基本に活動しており、支援機関を利用しない子どもたちを中心にサポートを持たせていただいています。我々の調査では8割以上が対人関係の問題を抱え、またゲーム依存や精神的な疾患、発達障害の疑いがあるケースも多くなっています。心理学的アプローチに基づいて支援を進める一方、様々な専門家とチームを組んでの対応が求められています。

さらに、近年では学校と家庭の間に「第三の居場所」の必要性が議論されています。この場所が子どもたちの心の安定と自信を育むために有効であると考えており、皆さんともこのテーマについて意見交換を行いたいと思っています。私たちの家庭訪問活動では、

不登校や引きこもりの若者たち、特にゲーム依存の子どもたちとの信頼関係の構築が非常に重要です。このため、子どもたちの関心を理解し、一緒に楽しむ時間を大切にしています。そして、ゲームを通じて交流し、孤立感を和らげる支援を行うよう心掛けています。これが私たちの活動の一部ですが、引き続きこの重要なテーマに関する情報を共有させていただきたいと思っています。

家庭（保護者）への支援について

（末永） 私は、現在、佐賀県PTA連絡協議会の副会長を務めています。私自身も子どもの保護者として感じているのは、日常生活の忙しさから子どもたちに十分な時間を割くことが難しいということです。この状況の中で、不登校の問題が増加し、学校の相談窓口やソーシャルワーカー、カウンセラーが対応にあたっていますが、相談件数の増加に対してその機能が十分に果たされていないのが実情です。また、子どもたちが一人で過

ごす時間が長くなっていることから、安全な家庭環境の確保が難しくなり、インターネットやSNSに依存する傾向も見受けられます。そのため、保護者は子どもの居場所について十分な理解を深めることが重要ですが、必要な情報が届かない現実もあり、心の問題が深刻化する前に支援を受けられないケースが増加しています。さらに、子どもたちが困ったときに相談できる場所を知っているかどうかも大事なポイントです。

九州各県の課題では、母親同士のつながりや情報発信の場が不足していることも耳にしています。佐賀県でも市町によっては母親の会議や相談の場が減少しており、保護者がサポートを求めてもその環境が整っていないのが現実です。私たちはこのような課題に対して意見を交わし、解決策を見いだしていくことが求められています。

体験格差・体験不足の解消につなぐ

(堤) 私の名前は堤公一（つつみこういち）と言います。私は自己

紹介の際に、22351という数字を使った自己紹介を行っています。22351という数字がなぜ堤公一を表しているかというと、2はワン、ツの「つ」、3はひとつ、ふたつ、みっつの「み」で、51（ごーいち）は「こういち」と音が似ているからです。このように22351（つつみこういち）という名前のテンプレートを活用した自己紹介を必ず行っています。なぜなら、私は佐賀県レクリエーション協会理事で、コミュニケーションを土台とするレクリエーション活動を通して、人々の心を元気にしていくレクリエーション支援を研究しているからです。

また、子どもの成長にとって、育ちの栄養素である体験活動は欠かせません。特に子どもを対象とするレクリエーション活動では、参加者の笑顔を引き出す「遊び」をベースとする体験活動を味わうことはもちろんですが、その体験活動をただ消費するだけではなく、育ちの栄養素である遊び体験をきちんと消化吸収して人間的成長の基盤となる学びという経験にしていくことまでが求められます。し

かし、その遊びを学びに変えていく作業には、体験を経験にしておく大人の支援が必要になります。学校教育においては先生が、社会教育においては家族や地域の人々が支援していくことになります。社会教育委員はこのような遊びという体験を学びという経験にする支援者として重要な役割を担っているといえます。そして、学校教育と社会教育のシームレス化が進む中で、「社会教育にもできること」と「社会教育にしかできないこと」を明確に区別して、体験不足と体験格差の解消に向け、共に考えていければと望んでいます。

これからの社会教育委員のあり方

(山口) 本日は、委員の皆さんや上野先生のお話をもとに、「これからの社会教育委員のあり方」について考えていきたいと思っています。

現在、全国各地で「子どもたちの体験不足」、「家庭の教育力の低下」、「不登校の増加」などの課題が顕在化しています。これらの問題に対して、社会教育委員の役割

はこれまで以上に重要になっていきます。

まず、体験不足は、子どもたちの「経験の格差」として現れています。その背景には、経済的な事情や地域差があり、自然体験などに参加できない子どもが増えています。教育機会が制限されることで成長の機会を失う可能性もあります。また、体験に苦手意識を持つ保護者もあり、親自身の経験が無意識のうちに子育てに影響を与えていることもあります。

つぎに、文部科学省の調査によると、約7割の保護者が家庭の教育力の低下を認識しています。これは、核家族化や地域コミュニティの希薄化など、社会構造の変化が原因とされています。その結果、子どもたちの生活リズムが不規則になるなど、家庭内での教育環境が不安定になっています。家庭教育を支援する体制の整備が急務です。しかし、地域での支援が求められる一方で、支援を担う人材が不足していることも深刻な課題になっています。地域全体で学びの環境を整えることが求められています。特に発達障がいのある子ども

もたちへの支援は、保護者にとって切実な問題であり、情報提供や講座の開催などの具体的な支援策が求められています。

そして、全国的に不登校の児童が増加しており、佐賀県でも約2,000人が不登校の状態にあります。この問題に対しても、社会教育委員が主体的に考え、行動することが求められています。地域に「安心できる居場所」を増やすことも解決へのアプローチの一つです。また、学校との連携を深め、地域全体で子どもたちの成長を見守る体制づくりも重要です。例えば、唐津市の家庭教育支援チームは、保護者への相談やサポートを通じて、子育てとともに親育ての役割を果たしています。これらの課題の改善を考えるうえで、今後、佐賀県にもっと家庭教育支援チームが増えていくことが重要だと考えます。

最後に、「これからの社会教育委員のあり方」の方向性として、「地域の学校」地域で育てる子どもがテーマに決まりました。今後は、社会教育委員の皆さんが中心となって、学校教育と社会教育の連携を進めていく役割を担って

いくこととなります。そのために、社会教育委員が、地域や社会の一員として何ができるのかを共に考えていきましょう。

これからの取組について

（上野）今までのパネリストの方々の話から、明日から私たちが何を始めればよいのかということが投げかけられました。来年の総会までの1年間に、自分たちがどのようなことに留意して取り組むべきか、社会教育委員として、どのような課題に取り組むとよいかを最後に提起していただければと思います。

（数山）子どもや若者にもっと目を向けるべきだと感じています。特に、自分の苦しみを表現できない方々や、周囲からは自己責任とみなされがちな引きこもりの人々が、実際には深い困難を抱えていることに気づくことが大切です。これらの方々は多くの市町に存在しており、一緒にその問題について考える必要があります。そのた

めには、行政や社会が支援できるような理解を深めていくことが求められます。

（末永）PTAは学校と地域を支える応援団であり、保護者や地域のつながりを強める活動が重要です。地域のつながりが弱まっていることから、子どもたちや保護者の心の拠り所を築くために、地域コミュニティの大切さを認識し、挨拶の重要性も伝える必要があります。保護者としてこの価値を子どもたちに教えることが求められ、同時に社会教育委員や先生方と協力し、安心して生活できる環境を共に作っていったらいいんじゃないかと思っています。

（堤）社会教育委員の役割として明日から始められることは、自己紹介を工夫することです。私の2351という数字を使った自己紹介のようなテンプレートでなくとも構いませんので、みなさんがそれぞれで工夫した自己紹介を使うことが、地域を明るく元気にする一助であると思います。

そこで、まずは自分なりの自己紹介テンプレートを考えましょう。そして、恥ずかしがらずに実行して、地域のみなさんの笑顔を引き出していきましょう。

（山口）地域教育委員の役割について改めて考えると、まず何よりも大切なのは、子どもたちや地域そのものに関心をもつことだと感じます。関心をもつことは、地域を知り、理解するための第一歩だからです。

地域の資源、人、場所などを知ること、地域の特性や課題が見えてきます。そして、その理解が深まることで、人と人とのつながりが自然と生まれていきます。教育は、こうしたつながりの中でこそ豊かに育まれるものです。

とはいえ、こうした取り組みを一人で担うのは容易ではありません。だからこそ、つながりを大切にして、積極的に行動を起こすことが重要です。小さな一歩でも、仲間とともに踏み出すことで、大きな成果につながる可能性があります。まず、地域を知ること。そし

て、理解を深め、つながりを築くこと。これこそが、地域教育委員としての活動の土台であり、未来への確かな一歩になると信じています。

まとめ

（上野）社会教育委員としての役割は、まずは地域の実態を知ることが重要です。具体的には、調査研究を通じて地域の実情を把握し、社教委員同士や関係者との話し合いを行うことが求められています。そして、子どもたちや地域のためにどのような行動ができるかを考えて実践するために、「知ること」「話すこと」「行動すること」という3つのステップを、この1年間に皆さんと取り組んでいきたいと思っています。

アンケート内容

基礎研修会終了後に御記入いただいたアンケートでは、委員も職員もほとんどの方が参考になったという回答をいただきました。

その一部を掲載します。（構成

上、記載内容を要約しています。）

（基礎講座）

・社会教育委員の役割や現状、課題等を知ることができて、よい学びとなった。

（トークセッション）

・パネリストの様々な立場から、現状やアドバイスを聞くことができた。

・不登校や居場所など、子どもの抱える問題について大変参考になった。

・3つのテーマをメインに、課題を深掘りした中で、自己肯定感の話はとても核心をついていて、印象に残った。

（今後の活動等）

・現在 不登校の増加や家庭教育力の不足が叫ばれているが、具体的な方向づけや 解決に向けての方策等を考えていく必要を再認識した。

・「これからどうすれば良いか」パネリストの方からお聞きできてよかった。①知ること ②話すこと ③行動すること これからできることからしていこうと思った。

第67回全国社会教育研究大会石手大会 概要予告

開催趣旨の概要

私たちには、地域において子どもの健全な成長を支援するために、世代や立場を超えたつながりを生み出し、子どもを取り巻く問題の解決に地域ぐるみで取り組んでいけるような社会教育のあり方について検討し、実践していくことが求められています。

そのような中、全国各地から社会教育関係者が集まり、子どもたちを取り巻く様々な問題を考察し、解決を目指した実践活動について協議を重ね、より充実した実践を目指していきます。

大会スローガン

学びと絆で未来を拓く！社会教育のイーハトーブをめざしてin いわて

研究主題

共に学び支えあう社会教育の実践（ウェルビーイングの実現に向けて）

期 日

令和7年10月30日（木）

全体会

令和7年10月31日（金）

分科会

- ① 社会教育委員の役割
- ② 家庭教育支援
- ③ 学校・地域の連携・協働
- ④ 人づくり・つながりづくり・地域づくり
- ⑤ 公民館（社会教育施設）の役割

会 場

マリオス（盛岡市民文化ホール、盛岡地域交流センター）ほか

第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会 概要予告

開催趣旨の概要

地域課題の解決に向かう各県の実践や新たなひと・もの・こととの連携・協働等を交流することとおして、これからの新しい時代における社会教育の在り方や可能性を考える契機とする。

大会テーマ

社会教育の可能性～新しい時代の風 地域コミュニティを支える社会教育の実践～

期日

令和7年11月13日(木)

分科会

- ① つながりづくり地域づくり
 - ② 持続可能な社会の担い手の育成
 - ③ 誰もが学び続けることができる、学びたくなる環境づくり
 - ④ 学校・家庭・地域の連携・協働
- 令和7年11月14日(金)
全体会

会場

アクロス福岡



わたしの社会教育委員活動

「読み聞かせ活動を通して」

太良町 社会教育委員

塚本 有紀子

五十数年前、母に手を引かれ町の古びた小さな図書館に通っていたことを懐かしく思い出します。そこには、数少ない小さな机と机が置かれ、母たちは楽しそうにおしゃべりをしている光景がありました。当時、私たちがどんな時間を過ごしていたのかわかりませんが、とつても心地よい時間を過ごしていたような気がします。

それから三十年後、母親になった私が、二人の娘を連れてきれいに建て替えられた図書館へと足を運ぶようになりました。

このころ図書館では月に一回のおはなし会が開催され、そのメンバーとして、絵本の読み聞かせ、人形劇、エプロンシアター、ペープサートなどの練習を楽しみに通っていました。メンバーの子供たちも一緒に活動したり、大きい子

が小さい子のお世話をして遊んだり母から私へそれから子供たちへと図書館活動の楽しさを引き継ぐことができました。子供が小学校へ入学し、少しずつ手が離れていった頃、学校の図書館への勤務が決まり、今度は仕事として、本と関わりができるようになりました。最初は、本の貸し出し数増加、読書の定着、家庭読書の推進などに力を入れていましたが、お話を活動をしていた頃の絵本のよさ、



読み聞かせの大切さを知ってほしいと思い無謀にも毎週一回クラスを回り朝の時間に読み聞かせを試みました。

この一人での活動を二年ほど続けたところ、読み聞かせのよさ、他地区での活動が取り上げられはじめ、太良町でもPTA活動として母親部の役員さんや地域の方がボランティアで週一回読み聞かせをやってくださいるようになりました。それから二十年余りたった今でもPTA活動として役員の方や、母親部の方が読み聞かせを行ってくださったり、地域のボランティアの方が来てくださったりと、読み聞かせ活動は中学校にも広がり活動が続いています。先日、小学校の保護者さんが自分の子供のクラスに読み聞かせに来てくださいました。四年生の女の子のお父さんでした。お父さんは自分が一番好きな絵本を持ってきて優しい口調で読み始めました。最初は女の子も恥ずかしそうに下を向いていましたが、次第に、一生懸命読み聞かせをしてくれるお父さんの読み聞かせをじっと聞いて最後は大きな拍手をしている光景がとても微

笑ましく思えました。とてもいい親子関係を見ることができた時間となりました。

当初、この活動を社会教育とは結び付けることができなかったのですが、今、振り返ってみるとこれが継続してやり続けた社会教育の一環だったのかもしれないと思うことができたのも、社会教育委員として委嘱をしていただいたおかげだと思います。

今後幅広い活動を続け、微力ながら貢献できたらと思います。

「わたしの『メガネ』と個性（見方・考え方）をいかした社会教育委員の活動」

唐津市社会教育委員

堤 公一

みなさんは、地域において社会教育委員として活動する際、どんな「メガネ」をかけて活動していますか？私は「教育レクリエーション支援」という「メガネ」をかけて、唐津市社会教育委員としての活動に取り組んでいます。教育レクリエーション支援つて

何？？？ですよね。

公益財団法人日本レクリエーション協会によると、「レクリエーション支援」とは「レクリエーション活動を用いて、人々の心を元気にする手助け」であると定義しています。私は、佐賀大学教育学部で教員をしており、このようなレクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたクリエイティブな人材）の輩出を目指して、大学では「教育レクリエーション支援」の研究活動や授業を行っています。

加えて、この研究活動を社会に繋げていくために「佐賀のこういちお兄さん」として目の前にいる人を笑顔にしていくプロジェクトや、「からつ市レクリエーション協会」の会長として地域の人々の笑顔を引き出していく活動を行っています。

そんな私が唐津市社会教育委員に就任する際、「社会教育委員の

役割って、何をすればいいの？」

「学校教育と社会教育の違いって、そもそも何？」「地域のために社会教育ができることって、どんな活動？」等々、考えれば考えるほどに私の「はてな？」は広がり深まるばかりでした。そうしてたどり着いたのは、ありのままの自分で居続けようということでした。社会教育委員として期待される新たな自分になるうとすることも大切ですが、それ以上に自分を取り組んで得てきた知見である「ものの見方や考え方」という個性を社会教育委員の活動にいかすこと、つまり、教育レクリエーション支援という自分がかけてきた「メガネ」を信じて、社会教育委員としての活動に取り組んで行こうという決意でした。

そこで、令和4年5月26日第1回唐津市社会教育委員会、私の社会教育委員としてのキャリアは「みなさん、お元気ですか」、私の名前は『2・2・3・5・1』です。』という自己紹介でスタートしました。みなさんも、社会教育委員として、どんな「メガネ」をかけて活動していますか？今一度、

自分の個性である「ものの見方や考え方」をいかした社会教育委員としての活動について、一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

最後に、平成の市町村合併後20年を迎える唐津市では、策定された第3期唐津市総合計画を受けて、社会教育の推進も新たなステージに突入していきます。そのような変化の中においても、唐津市社会教育委員長として、まずは自分の「メガネ」をかけ忘れずに、そして、それぞれが価値ある個性的な「メガネ」をかけて活動している社会教育委員のメンバーとともに、唐津市の人々や地域を元気にする社会教育の推進に貢献していきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。唐津市社会教育委員の『223（つつみ）・51（こういち）』でした。

私が吉野ヶ里町社会教育委員の委嘱を受けたのは、コロナ禍の令和二年度でした。世の中すべてが「ソーシャルディスタンス」という名の「距離」を求められた時期でした。そしてコロナの脅威が薄れたころに残ったのは、「孤独感」

「みんなのつながりの場」

吉野ヶ里町 社会教育委員

福光 愛子

みんなの笑顔を引き出す社会教育委員活動として（SAGA2024国スポデモスト in唐津「ユニカール競技」の風景）



や「つながりの希薄」という以前とはちがう世の中でした。

「おはようございます。」「おはよう。」「公民館に今朝も元気の良い声がします。」「今日はなんばすつとね?」と早速の声掛けです。スポーツ推進員としても長年活動している私は、今年度から町内各地区の公民館を回り、スポーツの体験会をはじめました。まず、皆さんの健康チェックをし、佐賀弁ラジオ体操を第一から第二まで行い、ウォーミングアップを行います。身体を動かすことにより、会話も弾み笑い声があつちこつちから聞こえます。

今回行ったのは「いごてだま」です。早速二班に別かれ、「ジャンケンポン」と先攻後攻を決めます。25のマスの中に交互に1個ずつお手玉をなげます。皆さん「簡単に入る」とプレー前は言っていました。いざ投げ始めると線の上ののったり、はみ出したり、同じマスに入ったり、となかなか思い通りにマスの上に収まりません。「ありやー」「あいたまたー」段々と皆さんの熱が上がります。二回戦を始めるころには要領もよくな

り、ボルテージは最高潮です。三回戦に突入し、勝負がつくまで、と皆さん気合十分。結果は同点で終わりましたが、「今度はいつね?」と前向きな言葉を聞いて公民館を後にしました。



「いごてだま」

また別日には町の職員と一緒に「パン作りとおはなし場」を開催しました。今回の目的は異世代交流です。小学一年生から80代までの老若男女、24名の参加がありました。四班それぞれバラバラな年代で班を作ったことがよかったのか、非常に和気あいあいと、かつ手際よく進んでいきました。発酵時間を使って、ペアになり、みんな同じお題で一分間トークをしてもらいました。みなさん「真剣」

そのものです。小学生といえども、みんな自分の考えを持っていて大人顔負けでした。発酵時間が終わり、各々思い思いのパンを形作り、オーブンの中へ。出来上がったパンを見て歓声が所々で上がりました。試食タイムでは、幸せな焼き上がりのおいと味に笑顔があふれます。それぞれ家族にお土産として持ち帰り、「二回目もしたい」という声が私への置き土産でした。



「パン作りとお話し場」

こうやって書き出してみると、どれも「つながり」が生まれる場となっている、と感じます。もちろんはじめはそういったつもりはなく、スポーツの普及を行いたい、パン作りのしそうね、といっ

た始まりでした。しかし行いうちにこれらの活動の中で、初めましての人とのつながり、地域の人のつながり、異年齢のつながりが生まれました。「つながりづくり」といわれると大変そうだな…と一歩踏み出しにくいかもしれません。しかし、いざ始めてみると皆さんこういった交流の場所を待っていました！と言わんばかりに反応があります。これからも一緒に参画してくれる人を増やし、継続的な「みんなのつながりの場」を作りたいと思います。

「大町煉瓦館活動」と社会教育

大町町 社会教育委員

大西 奈々美

私はちょうど20年前の2005年に、大町町全盛時の産業と経済の基幹を担った、杵島炭鉱で唯一現存する遺構である変電所跡の修復保存と有効活動を目的に、地元有志を中心とした「杵島炭鉱変電所跡活用促進会」というボランティア団体を立ち上げました。そして建物の名称を「大町煉瓦館」とし修復

保存活動を始めました。

同時に、土に親しむ生活体験を目的とした「大町子どもダッシュ村計画」や、子どもたちのふるさと意識の醸成を目的とした「大町子どもガイドの育成」、古代のローマン、平和の象徴といわれる大賀蓮こと「二千年蓮池公園」を中心とした地域の景観づくりなど、幅広い活動をつづけています。そして大町煉瓦館という歴史的建造物を拠点としたこれらの活動は、現在では「大町煉瓦館活動」とし地元に着しつづけています。

「大町子どもダッシュ村計画」

では、子どもを中心とした家族や地域の方々が自然の中に集い、芋や野菜を育て、時には近くの水辺で水生生物を観察したりしながら農作業に汗を流す。ここでは家族の交流はもちろん地域間の交流や世代間の交流が生まれます。また、「大町子どもガイドの育成」には開始以来これまで17年間で延べ200名近くの子どもたちが、大町の歴史や文化を学び、自分の生まれ育ったふるさとの良さを発見し、大町を愛し、又それを周りの人に伝える語り部的人材に育っています。

す。

そして、今や大町の新名所となった「大町二千年蓮池公園」には毎年大輪の古代蓮が咲き、町内外から多くの方たちが来園され、文字通りの「平和の象徴」と言われる二千年蓮池を鑑賞しながら和んでおられるのを見ると、私たちスタッフに達成感と満足感をあたえてくれます。

時をさかのぼること8年ほど前、町の教育委員会の担当職員から「大西さん、社会教育委員を引き受けてくれませんか」とお話があった時、「社会教育」について全く知識がありませんでした。「どんなことをするのですか？」と尋ね、「大西さんがこれまで活動されてきた経験から公民館運営や生涯活動などについて自分の考えを述べていただきたい。」との返事に、私の経験をもとにしての考えなら、軽い気持ちで引き受けました。しかし、「社会教育」と「煉瓦館活動」が当初はなかなか結び付きませんでした。会議に出ても委員として何か手ごたえのないしつくりこない自分の立ち位置を感じました。そんな時、ある社会教育の冊子

に、「社会教育（生涯学習）」とは、人が生涯にわたり自己の充実、啓発や生活の向上のために行う学びである」という文を目にし、私自身が先に述べた煉瓦館活動で、人生の充実感や向上心とそれ以上に喜びも感じていることに気づかされ、目から鱗が落ちる思いでした。ですが、これが私だけの自己満足に終わらず、一緒に汗を流し、活動を続けているボランティアの仲間達にも、この活動がそれぞれの自己の充実や生活の向上につながっていったらと思います。そして、まだまだこれからも社会教育委員としての学びや気づきは続いていると思います。



大町子どもガイド

令和6年度県社協委連活動方針の取組状況調査結果について

総会において、令和6年度社協委連活動方針の調査結果を報告したところですが、その結果内容を掲載します。

◇令和6年度佐賀県社会教育委員連絡協議会活動方針取組結果

1 社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。

【連携の具体的取組】

・社会教育委員会議での議論、報告、意見交換会等が開催された市町（佐賀市、唐津市、鳥栖市、伊万里市、小城市、上峰町、太良町）
・学校教育と連携を行った市町（鹿島市）

2 ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。

【活動の具体的取組】

・ニューズレターを社会教育施設に掲示した市町（佐賀市）
・社会教育事業への参加、支援活動を行った市町（小城市、有田町、）
・ニューズレターを会議で紹介した市町（江北町）

3 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

【意見交換の場の開催の有無】

・開催した市町（佐賀市、唐津市、武雄市、小城市、神埼市、みやき町、大町町）
・令和7年度以降開催予定の市町（嬉野市、白石町）
・開催予定のない市町（鳥栖市、多久市、伊万里市、鹿島市、吉野ケ里町、基山町、上峰町、玄海町、有田町、江北町、太良町）

4 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

【計画策定の有無】

・策定した市町（佐賀市、鳥栖市、鹿島市、小城市、大町町）
・策定予定の市町（唐津市、嬉野市）

・策定予定のない市町（多久市、伊万里市、武雄市、神埼市、吉野ケ里町、基山町、上峰町、みやき町、玄海町、有田町、江北町、白石町、太良町）

○開催や策定の予定がないと回答した市町におかれましては、実績のある市町を参考に令和7年度の活動が充実しますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

今年の総会・基礎研修会には、多くの皆さまにお集まりいただき、感謝申し上げます。

今号では、基礎研修会の概要を掲載しました。トークセッションでは、社会教育委員の4人のパネリストの方がそれぞれの活動を行う中での思いなどを熱く語っていただきました。今後社会教育活動を行ううえで大変参考になるのではないかと思います。

さて、第11号から社会教育委員の皆さまに「わたしの社会教育委員活動」というテーマで、それぞれの委員の方の多方面での活動を

執筆いただいています。

基本的には市町の輪番による執筆ですが希望される場合はご連絡ください。

佐賀県社会教育委員連絡協議会事務局（佐賀県県民環境部まなび課）

〒840-8570（住所不要）

TEL 0952（25）7313

Fax 0952（25）7406

✉ manabi@pref.saga.lg.jp